ＰＦ－製仕－０６８Ｂ
年　　月　　日

# 角型エフレックス用塩ビ管変換アダプタ

# 仕　　様　　書

古河電気工業株式会社
ＡＴ・機能樹脂事業部門
機能樹脂技術開発部

1. 適用範囲

この仕様書は、「角型エフレックス」の異種管接続用部材として使用される塩ビ管変換アダプタについて適用します。

2. 種類

塩ビ管変換アダプタの種類は表-1 の通りとします。

表-1　種類

| 品番 | 呼び径 | 対応する異種管（塩ビ管） |
|---|---|---|
| KD-75-VP1 | φ75 | CCVP75 |
| KD-100-VP1 | φ100 | CCVP100 |
| KD-130-VP1 | φ130 | CCVP125 |
| KD-130-VP2 | | CCVP130 |

3. 材料

塩ビ管変換アダプタは、硬質塩化ビニル管を元管とします。

4. 形状・寸法

塩ビ管変換アダプタの形状及び寸法は表-2 の通りとします。塩ビ管変換アダプタは片端が面取りされた塩ビ管形状で、もう片端は角型エフレックスのオス部に接続できる形状とします。

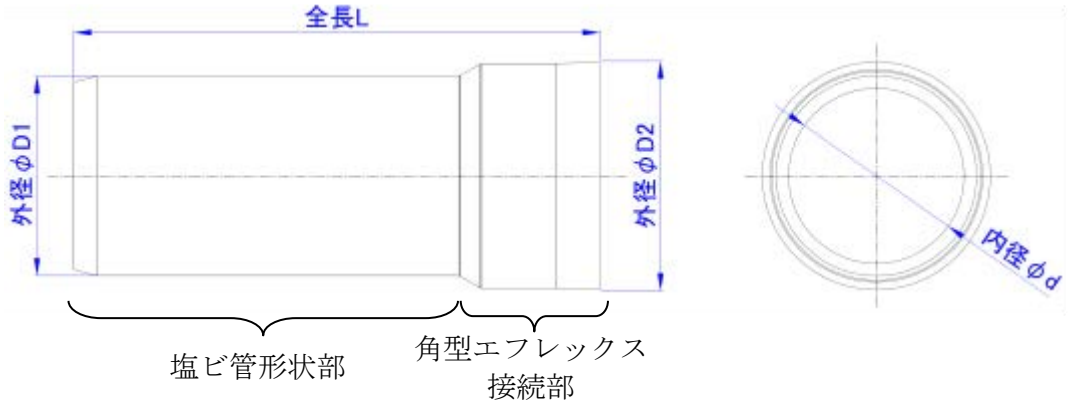


表-2　寸法

| 品番 | 呼び径 | 異種管 | L（mm） | φD1(mm) | φD2（mm） | φd（mm） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| KD-75-VP1 | φ75 | CCVP75 | 300±10 | 89±1 | 102.5±5 | 77±3 |
| KD-100-VP1 | φ100 | CCVP100 | 300±10 | 114±1 | 130±5 | 100±3 |
| KD-130-VP1 | φ130 | CCVP125 | 300±10 | 142.5±1 | 166.5±5 | 125±3 |
| KD-130-VP2 | | CCVP130 | 300±10 | 147.5±1 | 168±5 | 130±3 |

5. 特性

塩ビ管変換アダプタの特性は表-3 の通りとします。

表-3　特性

| 項目 | 特性 | 試験方法 |
|---|---|---|
| 外観 | 実用上不適当な傷、割れ等がないこと | 6.1 |
| 寸法 | 表-2 に示す寸法であること | 6.2 |
| 水密性 | 外水圧 0.05MPa で 10 分間保持したとき、漏水等の異常がないこと | 6.3 |
| 引抜強度 | 20mm/min の速度で引張り、φ75：500N、φ100：800N、φ130：800N で抜けないこと | 6.4 |

6. 試験方法

6.1. 外観

目視にて確認します。

6.2. 寸法

表-2 記載の寸法についてノギスを用いて測定します。測定温度は、20±15℃とする。径は管軸に直角な同一平面で、ほぼ等しい角度を有する２ヶ所で測定した値の平均を採ります。

6.3. 水密性

塩ビ管変換アダプタと角型エフレックスのオス継手部を接続し、両端に栓をした状態の試料を、水を満たしたタンク内にセットし、常温で外水圧 0.05MPa で 10 分間保持し、漏れやその他の異常が無いかを調べます。

6.4. 引抜強度

塩ビ管変換アダプタと角型エフレックスのオス継手部を接続し、両端を把持して常温で 20mm/min の速度で引張ります。

7. 注意事項

・プラスチック製品のため火気厳禁です。

・塩ビ管変換アダプタは、有機溶剤や可塑剤が接触すると、亀裂を起こす原因となりますので、有機溶剤や可塑剤が付着しないようご注意願います。特に、シーリング剤には、有機溶剤（キシレン、トルエンなど）や可塑剤（フタル酸エステル、DOP など）を含むもの（ポリウレタン系シーリング剤等）がありますので、成分をご確認の上、ご使用下さい。

・塩ビ管変換アダプタの、角型エフレックスと接続する部分の内面に傷がつくと、水密性を損なう恐れが有ります。当該部に傷がつかないように、お取り扱い下さい。

・高所からの落下等、強い衝撃を与えると、割れや欠けが生じる恐れがありますので、ご注意下さい。

・施工時の注意事項は、同梱された取扱説明書をご確認下さい。

8. その他

本書記載の仕様は、製品改良のためことわりなく変更する場合がありますのでご了承下さい。

-以　上-